3年生 社会科の実践

1 単元名 見直そう私たちの買い物

2 単元目標

- 買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、よりよい生活を求める消費者の工夫や努力をとらえ、それらと関連づけながら、販売に携わる人々が様々な工夫や努力をしていることを理解する。
- 販売の仕事の工夫や努力、商品の仕入れを通じた他地域とのつながりをとらえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気づくとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	知識・理解
・地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちも工夫して消費生活を営んでいこうとしている。	・地域の人々の販売の仕事の様子から学習問題を見いだして追究し、販売の仕事に携わっている人々の工夫や努力、自分の暮らしと販売の仕事とのつながり、上手な消費生活の仕方について思考・判断したことを適切に表現している。	・家庭の買い物の様子や地域の人々の販売の仕事の様子について、的確に見学・調査したり、具体的な資料を活用したりして、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。	・地域の販売の仕事に携わっている人々は、消費者の求めに応えられるよう、様々な工夫や努力をしていることや、販売の仕事は他地域とむすびついていること、自分たちの消費生活を支えていることを理解している。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

(1) 単元と指導

①単元について

この単元は、学習指導要領の内容(2)を受け、販売者側の工夫と消費者側の工夫に気づき、消費者としての意識を高めていくことができるように、買い物調べや店の見学を中心に設定している。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

現代の消費活動は、多様化している。個人商店、専門店、スーパーマーケットだけでなく、コンビニエンスストアも大きな位置を占めてきている。更に、インターネットも普及し、通信販売やネット販売を利用する家庭も増えてきた。そのような多様化する時代ではあるが、子どもたちの家庭の多くは、スーパーマーケットを利用している。その理由として、スーパーマーケットは、消費者のニーズに合わせ、発展してきていることにある。品質のよさ、安さ、種類の豊富さ等、店内を回ることで、食生活におけるほとんどをそろえることができる。買い物をすればポイントがもらえたり、タイムセールなどを行ったりしている店も多い。また、家に帰ってすぐに食べることができるように、総菜や弁当を販売する店も増えた。その上、エコ意識が高くなった今、エコバッグを利用するとポイントが増えたり、賞味期限が切れた物を肥料として使い、ほとんどごみが出ない

ようにしている店も増えた。他にも、駐車場を広くする、バリアフリーにするなどの施設設備も整ってきている。

子どもたちにとって「買い物」という活動は、普段の日常生活と密接に結びついている。しかし、その視点は、消費者側のものであり、販売者側のものではない。そこで、本単元では、子どもたちが実際にスーパーマーケットや個人商店、コンビニエンスストアなどに出かけ、見たり聞いたりした活動を通して、販売者側が消費者側のニーズに合わせ、大変な努力や工夫をしていることに気づいてほしいと考えた。そして更に、それぞれの店の工夫や努力、よさを知ること、消費者として店を選択していく力を身につけてほしいと考えている。

② 地域教材について

この地域は、学区の中に、商店街や個人商店、専門店、コンビニエンスストア、スーパーマーケットが混在している。3年生の中にも、個人商店の子どもたちが何人かいる。また、そうした個人商店や専門店で地域の人が働いているという実態もある。そこで、スーパーマーケットだけに視点を絞ってしまうのではなく、スーパーマーケットにはない個人商店や専門店のよさにも気づかせていきたいと考えた。個人商店や専門店では、品質の良さや安全性だけでなく、「お客様とのコミュニケーション」を大切にしている店が多い。専門で扱っているからこそ分かる、料理の仕方や鮮度の見方、どの材料を使うといいかなど、話をしながら買い物をすることができる安心感がある。地域の人とのコミュニケーションが減ってきている子どもたちにとって、人と人とのつながりを大切にしている個人商店や専門店のよさを知ることが、地域の人と関わることにもつながってくると考えている。

③ 学習過程について

本単元は、大きく3つの段階を踏むように構成した。

始めは、「買い物」への興味・関心を持ち、知的好奇心へとつなげていく段階である。本単元では、「遠足のお菓子はどこで買ったの？それはなぜ？」という問いかけを導入とした。遠足のお菓子を買うことは、子どもたちにとって楽しい体験であり、その話し合いの中から「買い物」への興味・関心がうまれると考えた。そして、1週間、自分の家の「買い物調べ」を行うことにより、「知りたいこと」「調べたいこと」を明確にし、知的好奇心を高めていくようにしていく。

次に、それらについて、実際に調べる活動を通して、予想と比べて新しい発見をしたりして事実を認識していくのが、2つ目の段階である。個人商店や専門店が多い地域にもかかわらず、多くの家庭がスーパーマーケットに買い物に行くという事実は、子どもたちの「なぜだろう？」「調べてみたい。」という知的好奇心を高め、「スーパーマーケットの人気の秘密は何だろう。」という切実な問題がうまれる。そして、それを解決していく過程で「他のお店はどうなんだろう。」という新しい問題意識が生まれてくる。そこで、「他の店のよさや工夫についても調べよう。」「それぞれのよさを比べよう。」と次の活動へ繋がっていきけるようにする。調査活動はグループで行い、それぞれの店のよさや工夫について自分の考えを持てるようにする。そして、得られた調査結果を全体で共有し、さらに、個々の考えが繋がっていきけるような声かけをすることで、そこで得た発見に広がりを持てるようにしていく。

最後の段階として、「なぜ」「どうして」によって知り得たこれまでの学習をふまえて「どうしていくのがよいか」「自分はどうしていきたいか」と、消費者としての自分の考えをもつことができるようにしていく。「カレーライスやピザトースト」の材料の準備は、子どもたちにとって消費者としての初めての経験であり、その問題の解決のために「どこで、どのような買い物をするとよいのだろうか」という切実な問題がうまれる。これまでに学習してきたことを根拠に、「上手な買い物の仕方」について考えていく。

このように単元を展開していくことで、子どもたちは知的好奇心を持続させて学習することができるのではないかと考えている。

④ 追究する力、仲間と支え合う自分

この単元では、スーパーマーケットでの調査活動を通してたくさんの事実を見つけ、「スーパーマーケットのよさ」を考えていくことを、1つめの追究として考えた。そしてその分かった事実をふまえて、「専門店や個人商店、コンビニエンスストアのよさ」を考え、スーパーマーケットのよさと比べていくことを2つめの追究と考えた。さらに、それぞれのよさが分かった事実をふまえ、「上手な買い物の仕方」について考えていくことを3つ目の追究と考えている。

また、調べてきたことをみんなで共有しようとしたり、全体での話し合いの前にグループで情報交換をしたりすることで、お互いが支え合っているという実感を子どもたちが持てるようにしていきたい。更に、話し合

いの場合、自分や友だちの考えを大切にしていけるようにしていきたい。

⑤ ひびき合いについて

ひびき合い、関わり合うために、まず、始めに自分の考えをしっかりと持てるようにスーパーマーケットや個人商店に行って調べてきたことを一度しっかりと見直す時間を設定していく。そして、分かったことや発見してきたことを自分自身でまとめた後で、グループで自分の考えを伝え合う時間をとり、予想したことや経験してきたことをお互いが比べられるようにしていきたい。

本時では、グループごとに分かれて調べてきたことをもとに、それぞれの店のよさや工夫について比べ合いながら話し合っていく。始めは「スーパーマーケットは安くて一度に買い物ができるからよい。」「コンビニはいつも開いているから便利。」と思っていた子どもたちが、それぞれのよさを出し合っていく中で、他の店のよさや工夫に気づき、「お肉屋さんで買い物をしてみたい。」「パン屋さんにも行ってみたい。」というように、消費者としての視点が広がる様子をひびき合いとしていきたい。

4 単元指導計画（全18時間＋総合5時間）

次	時	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1	① ～ ④	<p>○遠足のお菓子について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に実施した遠足のお菓子はどこで買ったのかを思い出し、その理由を話し合う。 ・家の人は、普段どこで買い物をしているのかを予想し、買い物の仕方について調べようとする意欲を持つ。 <p>○買い物調べをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の買い物について調べ、行った店やその理由を記録する。 ・調べて分かったことを話し合い、グラフに表す。 ・結果から分かったことをまとめ、学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の買い物の仕方について関心を持ち、学習への意欲を高める。 ・買い物調べカードに必要なことを記録する。そして、クラス全体の数を集計して、表やグラフに表し、学習課題を設定できるようにする。 <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】 【観察、資料活用】の技能】</p>
2	⑤ ～ ⑮	<p>○スーパーマーケット（小田原百貨店）の人気の秘密を調べに行こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットのよさを予想し、調べる計画を立てる。 ・実際に調べに行き、よさや工夫についてまとめる。 ・更に調べていきたいことをまとめる。 <p>○個人商店や専門店、コンビニエンスストアのよさや工夫を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの店のよさについて予想し、調べる計画を立てる。 ・実際に調べに行く。 ・それぞれの店のよさについて、スーパーマーケット（小田原百貨店）と比べながら、話し合う。＜本時＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物調べで分かった「よく買い物に行く店」について、その理由を予想させ、分からないことや知りたいことを明確にさせる。 ・設備や仕事についての視点を持ち、工夫を調べてこられるようにする。 ・それぞれの店で調べてきたよさと小田原百貨店のよさと比べられるようにする。 <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】 【観察、資料活用】の技能】【知識・理解】</p>
3	⑯ ～ ⑱ 総合	<p>○上手な買い物の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人が普段、どんなことに気をつけて買い物をしているか話し合う。 ・自分が買い物をする際、どこでどのように買い物をしたいか考える <p>○学習したことを生かして買い物をしよう。（総合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーライスやピザトーストを作るための計画を立てる。 ・グループごとに分かれて買い物に行き、調理し、食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物するときどのようなことに気をつければよいか、これまでの学習をふりかえり、話し合うようにする。 ・これまでの学習内容を生かして、自分が買い物をしたいところを選択できるようにする。 <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】</p>

5 単元構想

◎単元の目標

- ・買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、よりよい生活を求める消費者の工夫や努力をとらえ、それと関連づけながら、販売に携わる人々がさまざまな工夫や努力をしていることに気づく。
- ・販売の仕事の工夫や努力、商品の仕入れを通じた他地域とのつながりとらえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気づくとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

*興味を持つ

遠足のお菓子はどこで買ったの？ それはなぜ？

- ・いつも買っているから。
- ・好きなお菓子があるから。
- ・たくさん種類があるから。
- ・安いから。
- ・お店の人を知っているから。
- ・買いやすいから。
- ・家から近いから。

家の人はどうだろう？

- ・小田百が多いと思う。
- ・家から近いところに行ってるよ。
- ・安いところだと思う。
- ・仕事の帰りに買ってくるからよく分からない。
- ・知らない。

*課題設定

自分の家の買い物調べをしよう。

スーパーマーケット

- ・家から近いから。仕事の帰りに寄れるから。
- ・品物がたくさんあって、一度に全部買えるから。
- ・駐車場が広くて、車がとめやすいから。
- ・安いから。ポイントがたまるから。

専門店(八百屋、肉屋、パン屋など)

- ・お店の人を知ってるから。
- ・種類がたくさんあるから。
- ・質のいいものがおいてあるから。

*疑問

スーパーで買うことが多いね。
なぜだろう？

コンビニエンスストア

- ・夜遅くても開いているから。
- ・家の近くだから。
- ・駐車場があるから。
- ・買い忘れたときにすぐにも買える。

宅配

- ・家に運んでくれるから便利。
- ・重いものを買っても大丈夫。
- ・何でもそろってるから。

*課題追究

スーパーマーケットを調べに行こう。

・スーパーの良さを予想し、調べる方法と計画を立てさせる。

- ・売り場が広くて、通路も広がった。
- ・上に看板があって、遠くからでも分かりやすかった。
- ・品物を見やすく並べていて、選びやすかった。
- ・値段を大きく書いてあった。

- ・駐車場が広がった。
- ・牛乳パックとかのリサイクルコーナーがあった。
- ・買い物のカートが、出入り口に置いてあった。
- ・レジがたくさんあった。

*課題追究

本時

それぞれのお店の良さや工夫をくらべよう。

コンビニエンスストア

- ・オリジナル商品があった。
- ・交代して24時間やっている。
- ・すぐに食べられるようなものを売っている。

肉屋

- ・好きな量を売ってくれる。
- ・お客さんと話をしながら売っている。肉の種類が多い。
- ・料理の仕方を教えてくれた。

魚屋

- ・朝、市場から新鮮な魚を買ってくるんだって。
- ・目の前でさばいていた。
- ・魚の種類や調理の仕方を教えてくれた。

・調べたい店の良さを調査させる。

・それぞれのお店の良さについてスーパーと比べながら話し合えるようにさせる。

今度は自分で買い物をしてみよう。

上手な買い物の仕方を考えよう。

・これまでの学習をふりかえって、どんなことに気をつけて買い物をすればよいか考えさせる。

6 本時案（別紙）

7 実践を終えて

（1）単元構想について

本単元は、大きく3段階の学習過程を踏むように構成した。その第1段階で、「自分の家の買い物調べ」を実施した。その結果、「スーパーマーケット」で買い物をしている家庭が予想以上に多く、個人商店での買い物は少数だった。しかし、逆に、この結果は、「家の人は、スーパーマーケットで買い物することが多いのに、なぜこの地域には、こんなにたくさんの個人商店があるのだろう。」と、知的好奇心を高めることにつながっていった。また、スーパーマーケットでの買い物が多いにもかかわらず、「パンはパン屋さん」「肉は肉屋さん」とこだわりを持って買い物をしている家庭が何軒もあり、「それはなぜだろう？」と、個人商店のよさを考えていく上で、ポイントともなる結果でもあった。そのため、第2段階での「個人商店」の調べ活動では、「スーパーマーケットでの買い物がこんなに多いのに、商品（肉、パン etc）によっては、こだわりをもって専門店で買い物をするのはなぜだろう。その理由も調べてみたい。」という切実な問題が新たに生まれた。そして、「スーパーマーケットだけでなく、個人商店のよさや工夫についても調べよう。」「それぞれのよさを比べよう。」と意欲をもって調べ活動を進め、追究していった。

（2）成果と課題

導入時の「遠足のお菓子はどこで買ったの？それはなぜ？」という問いかけは、子どもたちに消費者としての「買い物」に対する興味関心を一度に高めることができた。また、その後1週間「自分の家の買い物調べ」をしたことで、それまではあまり深く考えずに、家の人の買い物と一緒にいて行っていた子どもたちが、「家の人は、普段、どのような理由でその店を選び、買い物をしているのか。」という「消費者としての視点」について、子どもたちは自分なりの考えをもつことができた。そして、「知りたいこと」「明らかにしたいこと」を明確にし、知的好奇心を高めることができた。

更に、スーパーマーケットで買い物をすることが多いのに、商品によっては、こだわりを持って個人商店で買い物をしているという調査結果は、「なぜ、こだわりを持って買い物をしているのだろう。そのわけを知りたい。調べてみたい。」という切実な問題を新たに持つこともできた。

ひびき合いについては、次の二つを手立てとして考えた。一つは、自分の考えをしっかりと持てるように、「スーパーマーケット」や「個人商店」を調べる活動の前後に、自分で考える時間やまとめる時間を確保すること。二つ目は、その後でグループで話し合い、情報を共有する時間を確保することである。その結果、一人ひとりが自分の考えをしっかりとまとめることができ、話し合いの際に自信をもって自分の考えを発言することができた。そして、それぞれの店のよさや工夫について話し合っていくなかで、「いつもは、スーパーマーケットで買い物をしているけれど、今度はお肉屋さんで、買い物をしてみたい。」「お母さんにも、パン屋さんのいいところを教えてあげたい。」等、消費者としての視点を広げていくことができた。

しかし、自分が調べてきたことを伝えることに意識がいつてしまい、他のグループが調べてきたことを自分のものと比較し、自分の考えを深めていくことが、まだ不十分だったように思う。ひびき合い、関わり合うためには、自分で考える時間やグループで情報を共有する時間を設定するだけでなく、話し合いの場面で、子どもたちの思考にそった話し合いのさせ方を工夫していく必要があると感じた。

また、調べてきたことを分かりやすく友だちに伝える力がまだ十分ではないため、調べ活動でたくさん情報を得たにもかかわらず、友だちにうまく伝えることができなかったことがあった。「伝える力」については今後の課題であると思う。